

ゼロからの国際会議誘致 ～コツコツ始める営業ガイドブック～



観光庁
Japan Tourism Agency

目次

はじめに

第1章 国際会議誘致を取り巻く現状と課題

国際会議の基礎知識.....	07
日本における国際会議誘致の現状.....	10
地方都市の誘致活動における課題.....	13

第2章 実践プロセス(主催者との関係構築)

県内の有望な主催者の探し方.....	19
プロセス1 有望な主催者を知る.....	20
プロセス2 地元大学から主催者を探す.....	21
プロセス3 主催者にコンタクトする.....	30
プロセス4 主催者と会う.....	32
誘致に向けた主催者との関係構築.....	36
県外の有望な主催者の探し方.....	39

はじめに

令和5年3月に、「観光立国推進基本計画」が閣議決定され、ここではコロナによる変化を踏まえたMICE誘致・開催の意義の発信、政府一体となったMICE誘致・開催、MICE開催地としての地域の魅力向上・発信、JNTO等によるMICE誘致活動の強化、MICE誘致の国際競争力の向上のための基盤整備が掲げられています。

また同年5月に閣議決定された新時代のインバウンド拡大アクションプランでは、「2030年までにアジアNo.1の国際会議開催国としての不動の地位、世界5位以内」「2025年までに展示会・見本市への外国人参加者数を2割増加させる。」というMICE目標が設定されました。

しかし、実態として日本における国際会議の多くは、東京や京都などの一部都市圏に集中しています。地方都市の多くでは国際会議誘致の第一歩を生み出せていない自治体・コンベンション推進機関が多く、国際会議誘致件数を伸ばせていません。日本のMICE産業の底上げのためには都市圏だけでなく、日本全体として国際会議誘致活動を推し進めていることが不可欠と考えています。

本ガイドブックは、地方都市の自治体、コンベンション推進機関、施設関係者のうち、これまで国際会議を誘致したことがない、もしくは今後誘致活動を積極的に行っていきたいと考えている方々に役立つことを目的に作成しました。誘致活動の第一歩として、どのように有望な主催者を探し、関係構築をしていくのかを分かりやすく解説しております。

第一章では、国際会議誘致を行っていくうえで知っておくべき基礎知識、そして地方都市が抱える課題についての客観的理解を目指します。そして第二章では、有望な主催者になりうる大学教授の探し方からアプローチ方法までを具体例を交えながら解説しています。

国際会議の誘致を担当する各都市・地域のコンベンション推進機関や会議施設等の担当者の方々が、自力で営業体制を整えられることが最優先事項と捉え、本ガイドブックが広く国際会議に関係する方たちの参考となることを願っております。

令和7年 3月
観 光 庁

第1章

国際会議誘致を取り巻く現状と課題

第1章 国際会議誘致を取り巻く現状と課題

本章のゴール

本章では、日本における国際会議誘致の現状や、地方都市が抱える課題を理解する

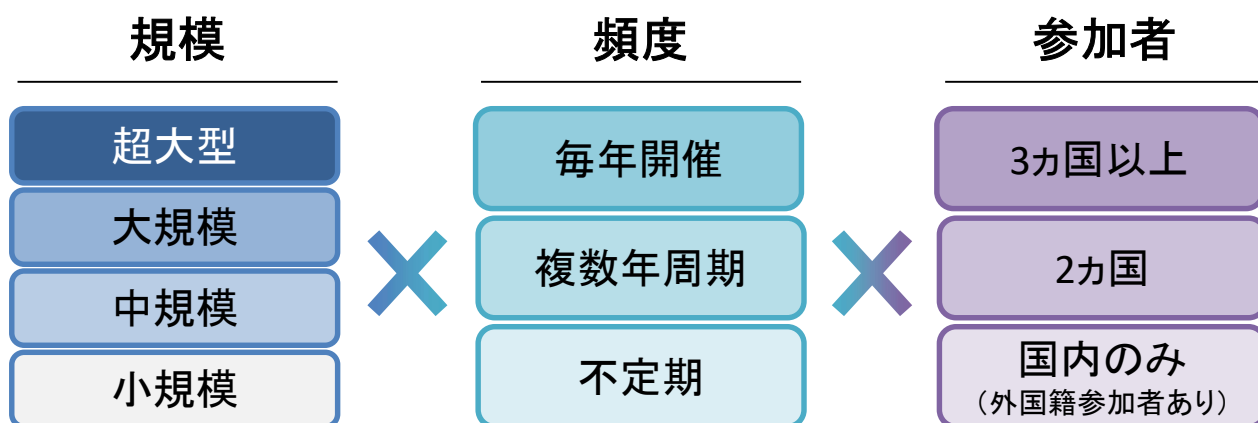
- ・ 国際会議の基本知識を理解する
- ・ 国際会議誘致において地方都市が抱える課題を理解する

第1節

国際会議の基礎知識

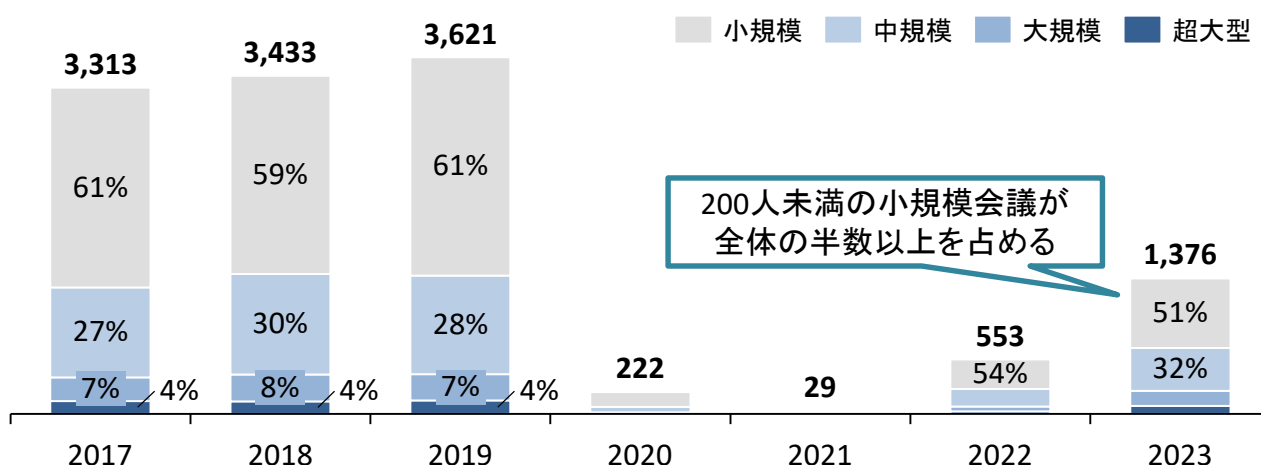
国際会議の種類

国際会議といっても、小規模なミーティングから数万人を集める大規模な会議、毎年開催から不定期開催まで様々である。各都市は、どのような規模の会議誘致が自都市に適当かを見極めて、誘致活動を行うことが重要である



規模	目安となる参加者数	会議例
小規模	～200人	国際機関の理事会や委員会、学術会議など
中規模	200人超 ～ 1,000人	各種の学術会議、団体総会
大規模	1,000人超 ～ 3,000人	大型学会、大会等
超大型	3,000人超	大型学会、業界団体・経営者団体の大会等

日本における規模別国際会議数（JNTO基準）



国際機関ICCAでは

50人以上

定期開催

指定なし

を国際会議の基準としているし、JNTOでは

50人以上

指定なし

3カ国以上

を基準にしている。国際会議誘致といっても大きな会議を誘致する必要があるわけではないのです



会議開催地決定のパターン

開催地決定方法も会議によってさまざまである。既に固定されている・持ち回りで決まってしまう場合もあるが、コンペティション形式でゼロから決まる場合も多い。

特に実行委員からの提案で決まる場合は、実行委員の裁量権が大きく、国際会議に慣れていない都市でも誘致を成功させることが可能である

開催地決定パターン	決定方法
開催地固定	開催場所が1つに固定されている (例: 国連総会、ダボス会議等)
持ち回り	機関や団体の加盟国など、特定の都市・域の間で順番に開催地が決定される (例: G8サミットや日中韓会合 等)
他会議連動	- 同分野の大型会議の開催にあわせ、同じもしくは周辺地域で開催地を決める (例: 第8回国際エネルギーフォーラム開催に合わせて、第121回OPEC総会を同都市の他施設で開催 等) - サテライト会議でよくみられる
コンペティション	- 求める条件にあう開催地を公募し、応募してきた都市・地域の中からコンペティションで開催地を決める - 大規模な国際会議において見受けられる
実行委員からの提案	- 学会や研究会の実行委員からの推薦で開催地を決める - 比較的小規模な国際会議でみられる



第1節のポイント

- ✓ 国際会議といっても、規模や頻度によってさまざまな種類があり、その開催地決定方法もさまざま
- ✓ 「実行委員からの提案」で決まる場合は、国際会議に慣れていない都市でも誘致を成功させやすい

第2節

日本の国際会議誘致の現状

政府は2030年までに世界5位以内になる目標を掲げていますが、開催数を伸ばしているGlobal MICE都市*以外での開催件数増加も目標達成に向けて重要です



*Global MICE都市 = 札幌, 仙台, 東京, 千葉, 横浜, 名古屋, 大阪, 神戸, 京都, 広島, 福岡, 北九州

解説

国際会議にかかる我が国の目標と現状

目標

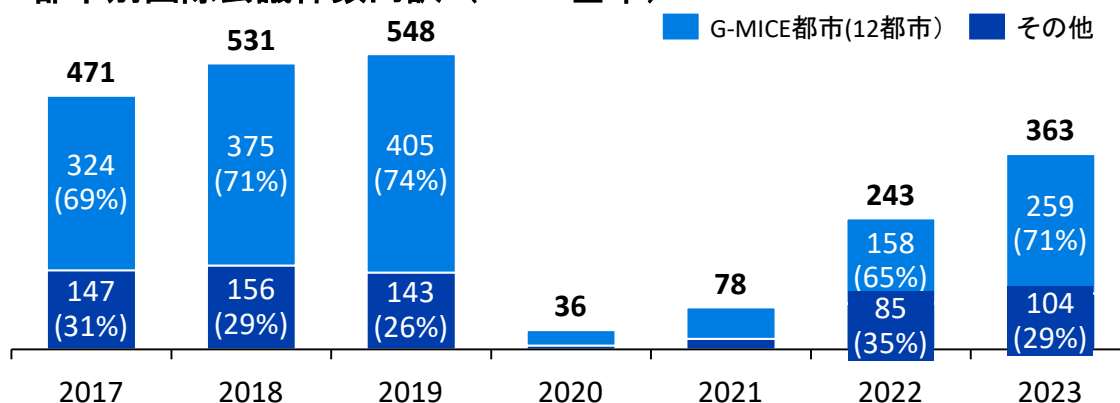
2030年までにアジアNo.1の国際会議開催国としての不動の地位、世界5位以内
(「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」より)

現状

国別国際会議件数 (ICCA基準)

順位(2023)	国名	件数
1	米国	690
2	イタリア	553
3	スペイン	505
4	フランス	472
5	ドイツ	463
6	英国	425
7	日本	363

都市別国際会議件数内訳 (ICCA基準)

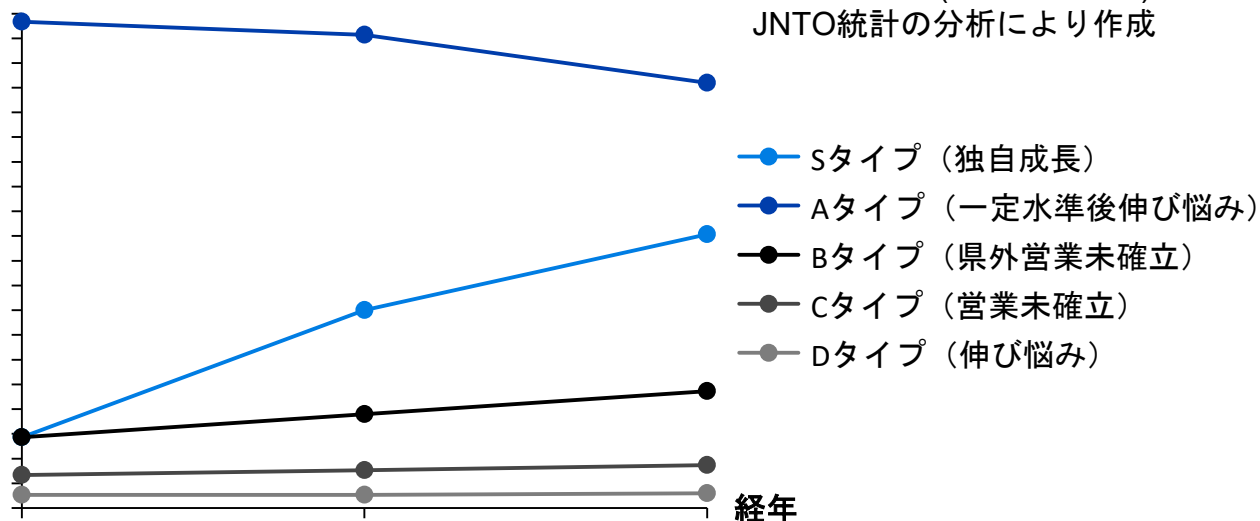


G-MICE都市以外でも、国際会議開催件数を伸ばせている都市がある一方、多くの地方都市では会議開催件数を伸ばせていない

地方都市の会議開催件数推移パターン*（中核45都市の推移から類型化）

開催件数

* 過去20年間(コロナ期除く)のJNTO統計の分析により作成



会議件数推移パターン	該当数	定義
Sタイプ（独自成長）	4都市	・営業や独自の工夫で成長している都市
Aタイプ（一定水準後伸び悩み）	6都市	・一定の開催件数はあるが、近年伸びてない都市
Bタイプ（県外営業未確立）	8都市	・県外営業体制が未確立の都市
Cタイプ（営業未確立）	17都市	・県内営業体制もまだ未確立の都市
Dタイプ（伸び悩み）	10都市	・長期的に伸び悩みをみせている都市

このガイドブックは、国際会議誘致に悩む都市のうち特にB,C,Dタイプの都市をターゲットとし、少しでもSタイプのような成長ができることを目指しています



💡 第2節のポイント

- ✓ 政府は2030年までに世界5位以内になる目標を掲げているが、G-MICE都市など一部都市に開催が集中
- ✓ G-MICE都市以外でも国際会議開催件数を伸ばせている都市がある一方、多くの都市では会議開催件数を伸ばせていない

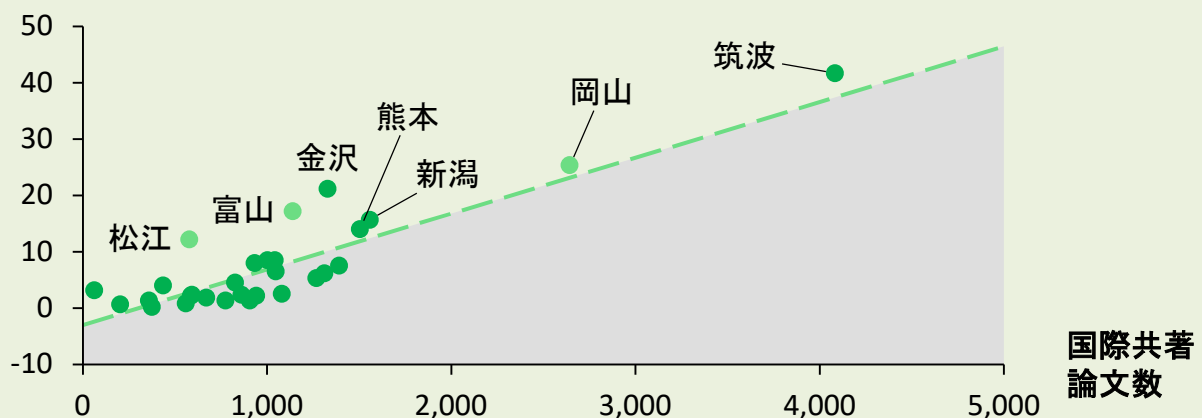
大学の国際化の現状

各大学はそれぞれの目標・ビジョンを掲げているが、近年多くの大学で国際化を大きな目標の1つとしている。これはグローバルにおける日本の大学の評価低迷などが背景として考えられる。

大学・学会の国際化推進の流れを受け、国際共著論文の執筆や国際会議誘致を積極的に取り組む大学教員の数が増えてきている。実際、全国的に国際共著論文が右肩上がりが増えており、その国際共著論文数と国際会議数との関係にも一定の相関関係が見られている（下図）

中核都市の国際共著論文数と国際会議数

国際会議件数



一方、地方の大学では国際共著論文数に限りがあるため、国際会議数を伸ばしていくためには旧帝大など同論文数が多い県外大学へのアプローチがいずれ必要になる。

上図の点線より上部に位置する（国際共著論文数に対して国際会議件数が多い）都市では、県外大学の教授からの誘致を引っ張ってる都市も多い（岡山、富山、松江など）

第3節

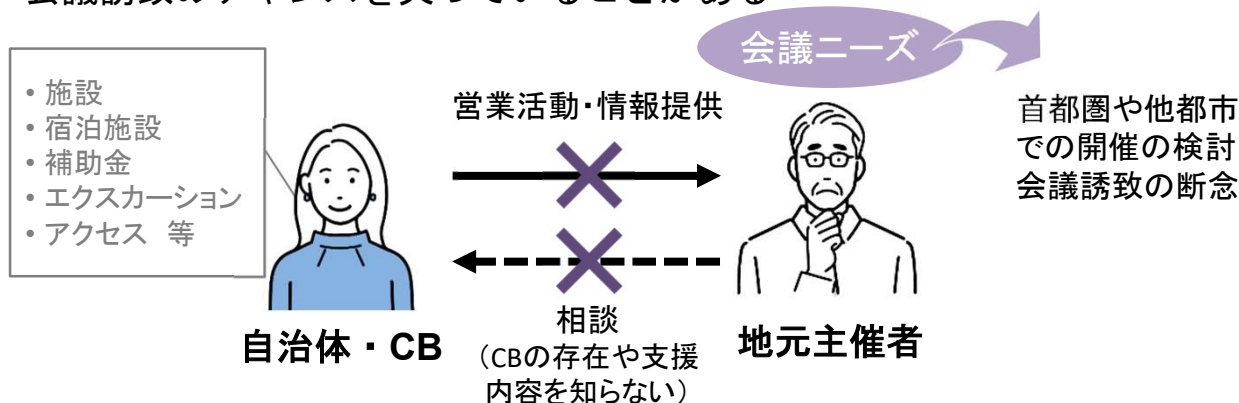
地方都市の誘致活動における課題

国際会議件数で伸び悩む地方都市の課題として
色々な要因がありますが、最も問題なのは主催者と自治体がちゃんとマッチングしておらず、**本来あるはずの会議開催機会を逃している**ことです



解説

地方都市においても、地元の大学教授を中心に国際会議主催ニーズがあることが多い。それに関わらず、自治体・コンベンションビューロー（以下CB）から主催者に対する営業活動や情報提供がないことで、会議誘致のチャンスを失っていることがある



会議誘致機会を逃している主な要因

1 自治体・CBの営業・情報提供体制が不十分

国際会議件数が伸び悩む地方都市の共通した問題として、主催者に対する営業活動や情報提供が不十分であることがある。これらの都市の多くでは、「依頼・問い合わせ」が来た時のみ対応すればよいと誤認されている



国際会議をやるときは主催者から問い合わせが来るはずだから、営業は不要でしょう

京都大学の院生が行った国際会議誘致要因分析によれば、ひと月当たりの営業回数として、

- ・ 都道府県内の営業：CBの2割強、コンベンション施設の7割弱が0回
 - ・ 都道府県外の営業：CBの2割弱、コンベンション施設の7割強が0回
- と回答されており、実際に営業が不十分な状況にあることがわかります

（詳細は以下を参照）

https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/KAFM-WJ015_kitamura_2019.pdf

北邨昌子・前川佳一「国際会議は大都市だけのものなのか-地方都市が抱える課題を探る」

2 主催者が「地元での開催は難しい」と思っている

自治体・CBからの営業活動・情報提供不足もあり、主催者は地元の会議施設等の情報を得ておらず、「地元では会議実施ができない」と認識してしまっていることがある。開催自体を断念したり、他都市での開催を検討することで、地元での会議誘致機会を逃してしまっている



国際会議をやっているイメージもないし、
会議施設もあまりよく知らないから、地元での
国際会議誘致は難しいのだろうな...

主催者が抱える課題

<国際会議誘致に関するノウハウ不足>

- ・ 主催者個人では、国際会議誘致の支援制度の情報収集に限界がある
- ・ 国際会議誘致の際のノウハウが不足している

<誘致活動に充てられる時間不足>

- ・ 主たる主催者である大学教授は、授業や研究などの通常業務があるなかで、国際会議誘致の活動にかけられる時間が十分とれない

第3節のポイント

- ✓ 国際会議件数が伸び悩む地方都市における一番の課題は潜在的な会議誘致機会を逃していること
- ✓ 自治体・CBから主催者に対する営業活動や情報提供がないことで、主催者が地元での開催を諦めてしまっている



各都市が主催者への営業体制を整え、潜在的な会議開催機会を捉えることで開催件数を伸ばすことが可能
(具体的な方法を第2章で解説)

第2章

実践プロセス（主催者との関係構築）

第2章 実践プロセス(主催者との関係構築)

本章のゴール

自都市への国際会議誘致に向けて、まずはキーパーソンとなる会議誘致の主催者とのネットワーク・関係構築が必要になる。

本章では、実際に主催者へアプローチできるようになるため、有望な主催者と関係構築していくうえでのポイントを理解する

- ・ 地元大学の有望な主催者の特徴と探し方を理解する
- ・ 主催者へのコンタクトの仕方、営業の仕方を把握する
- ・ 主催者と友好的関係構築するための方法・Tipsを理解する
- ・ 県外の有望な主催者の探し方・アプローチの仕方を知る

主催者と会うまでのプロセス



プロセス1

有望な主催者を知る

有望な主催者(特に大学教授)がどのような特徴を持っているかを理解・把握する



プロセス2

地元大学から主催者を探す

まずはインターネットの情報から、地元大学等から有望な主催者を探す



プロセス3

主催者にコンタクトする

見つけた主催者に対し、大学や研究室に掲載されている連絡先をもとにアポイント依頼を取る



プロセス4

主催者と会う

コンタクトした方から好意的な反応が来たら、主催者のもとを訪問し、会議に対する意向や課題感を伺う



プロセス1: 有望な主催者を知る

有望な主催者ってどんなひとでしょう...？



地元の理系大学・研究機関に所属している方で、学会の実行委員をしている方は有望ですよ！



解説



1

地元大学・
研究機関の所属

- ・ 地元の大学・研究機関：
自都市で開催するうえで地元大学・研究機関の方にはメリットを感じてもらいやすい
大学では特に教授/准教授が会議誘致に携わっていることが多く、有望度が高い



2

理系分野
所属

- ・ 理系学部：
日本における国際学会では、理工系学会の件数が多く、大学教授では特に「理学部、工学部、情報学部、医学部、農学部」の方々が有望



3

学会の
実行委員

- ・ 学会実行委員：
学会の開催にあたっては必ず実行委員会が設けられるが、中小規模の学会ではRFPを出さず委員会の中で開催地が決まることが多い
実行委員会のメンバーであれば、自都市での開催に向けて働きかけできる可能性が高い



プロセス1のポイント

- ✓ 有望な主催者の特徴は、
1.地元の大学研究機関所属、2.理系分野所属、3.学会の実行委員



プロセス2: 地元大学から主催者を探す

特徴がわかっていても探し方がわかりません...



大学はWebサイト上で教授一覧(研究者総覧)を掲載していることが多い！
まずはそこから探してみましょう！



解説



探し方のステップ

STEP
1

地元にある大学・
研究機関を洗い出す

- ✓ まずは地元の大学をチェックし
国立→公立→私立(理工系)
で優先順位付け
- ✓ 加えて理系研究機関も確認

STEP
2

大学・研究機関の
研究者一覧を検索

- ✓ 「大学名 教授一覧」と検索すると
ヒットすることが多い
- ✓ ヒットしない場合は大学HP上で探
してみる

STEP
3

理系の
研究者を表示

- ✓ 絞り込み機能等を活用し、理系
の研究者を表示する

STEP
4

研究者の
個人ページを確認

- ✓ 教授/准教授の個人ページを閲覧
して、有望な教授かをチェック
- ✓ 情報が足りないときは、所属する
研究室や個人開設サイトをみる

STEP
5

有望な主催者の
情報を記録する

- ✓ 有望そうな教授を見つけたら、確
認した情報をエクセルなどのツ
ールで記録

【探し方の実例】（宇都宮大学での例）

STEP2

大学に所属する教授一覧を検索する

大学名+教授一覧 で検索

宇都宮大学 教授 一覧

すべて 画像 動画 ショッピング ニュース 書籍 ウェブ もっと見る ツール

宇都宮大学研究者総覧
https://researcher.utsunomiya-u.ac.jp :
研究者総覧 - 宇都宮大学
所属で探す・学長・理事・データサイエンス経営学部・地域デザイン科学部・国際学部・共同教育学部・教育学研究科・工学部・共同教育学部・工学部・農業経済学科・言語学

宇都宮大学
https://web.edu.utsunomiya-u.ac.jp : 学部について :
教員一覧 | 宇都宮大学共同教育学部
共同教育学部 教員一覧; 石塚 諭, 准教授, 体育科教育学; 加藤 謙一, 教授, 陸上競技, 発育発達, スポーツバイオメカニクス; 久保 元芳, 准教授, 健康教育学, 保健科教育学 ...

宇都宮大学工学部
https://www.eng.utsunomiya-u.ac.jp : post_teachers :
教員紹介 - 宇都宮大学工学部
機械システム工学コース・教授大谷 幸利・教授尾崎 功・教授嶋崎 聡・教授鄭 艶華・教授関川 宗久・教授長谷川 裕晃・教授Nathan Adrian Hagen・教授馬淵 豊

宇都宮大学
https://www.utsunomiya-u.ac.jp : research : search :
研究者情報検索
宇都宮大学には、下記6学部300名を超える教員（教授・准教授・講師・助教）が所属し、多様な研究や実践をおこなっています。彼らの具体的な経歴や研究テーマをまとめ ...

大学の研究者総覧
をクリック

宇都宮大学研究者総覧
UTSUNOMIYA UNIVERSITY Researchers

ホーム

日本語 English

キーワードで探す

名前で探す

所属で探す

※ 下部組織を表示する

- 学長・理事
- データサイエンス経営学部
- 地域デザイン科学部
- 国際学部
- 共同教育学部
- 教育学研究科
- 工学部
- 農学部
- 地域創生科学研究科
- 研究推進機構
- 大学教育推進機構
- 地域創生推進機構
- 学内共同施設
- 東京農工大学大学院 適合農学研究科

専門分野で探す

※ 詳細な分野を表示する

- ライフサイエンス
- 情報通信
- 環境・農学
- ナノテク・材料
- エネルギー
- ものづくり技術（機械・電気電子・化学工学）
- 社会基盤（土木・建築・防災）
- フロンティア（航空・船舶）
- 人文・社会
- 自然科学一般
- その他



STEP3へ

STEP3

理系の教授を表示する

宇都宮大学研究者総覧
UTSUNOMIYA UNIVERSITY Researchers

ホーム 日本語 English

キーワードで探す

名前で探す

所属で探す

※ 下部組織を表示する

- 学長・理事
- データサイエンス経営学部
- 地域デザイン科学部
- 国際学部
- 共同教育学部
- 教育学研究科
- 工学部
- 農学部
- 地域創生科学研究科
- 研究推進機構
- 大学教育推進機構
- 地域創生推進機構
- 学内共同施設
- 東京農工大学大学院 連合農学研究科

専門分野で探す

※ 詳細な分野を表示する

- ライフサイエンス
- 情報通信
- 環境・農学
- ナノテク・材料
- エネルギー
- ものづくり技術 (機械・電気電子・化学工学)
- 社会基盤 (土木・建築・防災)
- フロンティア (航空・船舶)
- 人文・社会
- 自然科学一般
- その他

例：工学部所属の研究者一覧を開く
(ない場合はキーワード検索で“工学部”などで調べる)

宇都宮大学研究者総覧
UTSUNOMIYA UNIVERSITY Researchers

検索結果 ホーム

検索条件 【所属検索】 工学部

キーワードで絞り込む

AND検索 OR検索 使い方

検索結果 86件中1~10件目

表示順: 所属 表示件数: 10 件ずつ

カ グンダン 何 元元 工学部 認知科学、社会情報、環境認知	イムラ ワンイチ 飯村 兼一 教授 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース ナノテク・材料 / 環境物質化学、ナノテク・材料 / 基礎物質化学	イトウ サトシ 伊藤 智志 准教授 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース ナノテク・材料 / 環境物質化学、物理有機化学、機能性有機化合物の合成に関する研究、ナノテク・材料 / 有機機能材料	イナカワ アリノリ 稲川 有徳 准教授 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース ナノテク・材料 / 分析化学
イワイ ヒデカズ 岩井 秀和 助教 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース ナノテク・材料 / ナノ構造化学、人文・社会 / 環境教育	ウヰハラ ノブオ 上原 伸夫 教授 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース ものづくり技術 (機械・電気電子・化学工学) / 計測工学、ナノテク・材料 / 分析化学	オオバ トオル 大庭 亨 教授 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース ナノテク・材料 / 有機機能材料、ライフサイエンス / 生物機能化学、ナノテク・材料 / ナノデバイスロギス	カトウ ノリヒロ 加藤 紀弘 教授 工学部 基盤工学科 物質環境化学コース 生体機能化学、高分子・機能材料、ナノテク・材料 / 高分子化学、ナノテク・材料 / 高分子材料、ナノテク・材料

教授/准教授をクリックして個人ページを開く

STEP4へ

STEP4

研究者(教授/准教授)の個人ページを確認する



確認 ポイント

①【基礎情報】

✓ 大学内での役職、研究分野

②【学会関連情報】

✓ 所属学会の開催実績、学会での役職

③【その他活動情報】

✓ 英語での論文発表、外部講演・発表の実績

✓ 海外でのアクティビティ

The screenshot shows a researcher's profile page for Kenichi Emura. The page is divided into several sections:

- Basic Information (Basic Info):** Includes the researcher's name (Kenichi Emura), title (Professor), and affiliation (Tokai University). This section is highlighted with a red box and labeled with a red circle 1.
- Academic Activities (Academic Activities):** Lists various academic activities, including committee memberships and awards. This section is highlighted with a red box and labeled with a red circle 2.
- Publications (Publications):** Lists various publications, including journal articles and book chapters. This section is highlighted with a red box and labeled with a red circle 3.

論文や外部講演が活発な方は、会議誘致にも前向きである方が多いです！



STEP4の続きへ

STEP4(続き)

研究者(教授/准教授)の個人ページを確認する

大学のホームページに掲載されている情報だけでは**国際会議主催者として有望かどうか**わからない場合、
教授が所属する**研究室のウェブサイト**や**その他ウェブサイト**も確認しましょう！！



研究室ウェブサイトの例

宇都宮大学 工学部 応用化学科 計測化学研究室	
HOME MEMBER RESEARCH PUBLICATION FOR STUDENTS CONTACT&ACCESS LINK	
編 制 者 Arinori INAGAWA	
その他	
担当授業	物質環境化学実験A・B(学部)、基礎情報代数学(学部)、分析化学基礎(学部)、溶液化学、分子構造化学(大学院)、環境分析化学(大学院)
専門分野 興味がある分野	分析化学、分離化学、界面計測、膜分離、生化学分析(エクソソームやCTC)、うま味成分の分析、体臭分析
所属学会	日本化学会、日本分析化学会、日本イオン交換学会、日本鉄鋼協会、日本海水学会、米国化学会
委員等	SSC Tokyo International Conference Committee Member 日本分析化学会 代議員 日本分析化学会 編集委員 常任幹事 日本分析化学会 関東支部監事の会 幹事 日本分析化学会 分析イノベーション交流会 実行委員 日本イオン交換学会 理事(2022/9-2023/8)、常任理事(2023/9-)
編集委員等	日本分析化学会 「ぶんせき」誌 編集委員(2022/3-2023/3)、編集幹事(2023/3-) Journal of Ion Exchange Associate Editor(2023/9-) Sensors and Materials Guest Editor for Special Issue "Sensors for Society"

過去の具体的な委員会歴などから、国際会議への意向がわかる

その他ウェブサイト例：▶researchmap



各教授の経歴や内外講演歴、所属学会などの基礎的情報が多く掲載されている



STEP5へ

STEP5

有望な主催者の情報を記録する

記録しておく情報	
基礎情報	教授氏名、URL、大学名、学部名、役職名、連絡先（電話、メール）
学会情報	所属学会名、学会の過去開催実績、今後の開催予定
営業情報	営業担当者、最終アプローチ日時、営業ステータス

X Microsoft Excelでの記録例

基礎情報										学会情報		営業情報	
No.	教授名	URL	大学名	学部名	役職	電話番号	メールアドレス	備考欄	所属学会	過去の実績	今後の開催予定	担当者	最終アプローチ日時
1	淡口 辰雄	https://~	〇〇大学	工学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			山田	2024/1/1
2	塚本 信雄	https://~	△△県立大学	理工学部	准教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			佐藤	2024/2/3 連絡なし
3	大城 優馬	https://~	△△県立大学	理工学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ	2024：広島	2025年春：東京	山田	
4	玉乃 利夫	https://~	△△県立大学	理工学部	准教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			山田	2024/2/3
5	池山 真之	https://~	〇〇大学	情報学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			佐藤	2024/1/1 連絡なし
6	水月 諒則	https://~	〇〇大学	工学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			佐藤	
7	入来 晴彦	https://~	〇〇大学	情報学部	准教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			佐藤	2024/1/1
8	小谷 智行	https://~	△△県立大学	理工学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			山田	2024/1/1
9	吉村 博文	https://~	△△県立大学	理工学部	准教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ	2023：京都	2026年秋：札幌	山田	2024/2/3
10	曾川 大輔	https://~	XX大学	工学部	准教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			佐藤	
11	本田 光	https://~	〇〇大学	理工学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ	2023：長野	2026年秋：名古屋	佐藤	2024/2/3
12	三瀬 和正	https://~	XX大学	工学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ	2021：熊本		佐藤	2024/1/1
13	南 登博	https://~	XX大学	工学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			佐藤	2024/1/1
14	田村 朝陽	https://~	〇〇大学	情報学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			佐藤	
15	沢田 幸一	https://~	〇〇大学	情報学部	准教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			佐藤	
16	保坂 一彦	https://~	〇〇大学	工学部	准教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ			山田	2024/2/3
17	近藤 真行	https://~	XX大学	工学部	教授	080-XXXX-XXXX	XXX@dummy-u.ac.jp		ZZZ	2022：仙台		山田	2024/1/1



上記のステップを実践し、まずは
有望な主催者を40～50人程度見つけることが目標！
 慣れてきたら定期的に主催者情報を調査して、月4-5人ずつ新しい教授を見つけていけると理想的！

💡 プロセス2のポイント

- ✓ 「大学名+教授一覧」で検索し、**大学が公表している研究者一覧から理工系の教授/准教授を探す**
- ✓ Excelや営業ツールを活用し、情報は必ず記録する
- ✓ これまで主催者探しをしたことがないCB・自治体は、**まずは有望な主催者を40～50人程度見つけることを目標にする**

コラム JCCBのDBを活用した教授の探し方

JCCB（日本コンGRES・コンベンション・ビューロー）では、毎年全国で実施された会議をデータベース（DB）化して会員に提供している。

会員になるためには会費を支払う必要があるが、このデータベースを活用して有望な主催者を探す方法もある。自都市の教授は探しづらいが、学会ごとに所属する教授を把握する上では有効な手段なので覚えておきたい。

STEP1

自都市で開催可能な規模の国際会議をDB上で検索する

JCCBの会議DB検索画面

自都市のキャパシティ等を入れて検索

検索結果

総件数 104 表示件数 100 一括印刷 CSV出力

詳細	番号	コンベンション名	開催年	開催地	参加人数	団体名	初回登録年度	更新年度
詳細	00710-1	国際東方学会会議	2021～2024	東京都 他	300人	東方学会	2020	2023
詳細	00711-4	第__アジアバイオマス科学会議	2021～2028	秋田県 他	100人	日本エネルギー学会	2019	2023
詳細	01072-5	日韓国際シンポジウム	2021～2024	高知県 他	100人	一般社団法人 日本材料科学会	2022	2023
詳細	01117-3	Asian Light Metals Association (ALMA) fo	2018～2020	東京都 他	100人	軽金属学会	2019	2019
詳細	01117-4	The International Conference on Aluminum	2018～2022	富山県 他	500人	軽金属学会	2019	2020

STEP2

ヒットした学会に所属する教授をブラウザで検索する

学会概要

学会の活動

部会/支部/研究会

褒賞/フェロー

会員

製品マップ/物性データ

その他

2025年度春季 第109回
低温工学・超電導学会研究発表会
@タワーホール船堀(東京都江戸川区), 2025年5月28日[水]~30日[金]
学会活動に関するアンケート結果へのリンクはこちら

4thIWC-HTS International Workshop on Cooling systems for HTS Application
日程: 2024/10/23-25 会場: くびきメッセ(島根県松江市)

シンポジウム (ハイブリッド開催)
**カーボンニュートラル社会創出に向けて(第2回)
— Superconductivity Global Alliance (ScGA)
および国内の取り組み—**

機関誌
低温工学 59巻 2号
誌がる超電導回路の応用

低温工学

次号以降の掲載
59巻3号 2024年5月20日発行
59巻4号 2024年7月20日発行
特集: 超電導コイル製作経験から学ぶ超電導コイル開発への展望
59巻5号 2024年9月20日発行
特集: JT-60SA 用大型マグネットの完成とマグネット運転
59巻6号 2024年11月20日発行

優良発表賞

優良発表賞の評価を希望される方は事前に共著者全員の同意を得てから、講演申込時に申し込んで下さい。
以下の場合には原則として審査の対象になりません。

- 学会開催年度末において36歳以上
- 学会までに年会費が未納
- 過去5年に同賞の受賞歴

優良発表賞審査を希望される方は、発表時点で本学会員であることが審査を受ける条件となります。
新規入会者は同時点で入会手続きを終えている必要があります。
(賛助会員団体および事業会員団体からの個人参加者は審査を受けられませんのでご注意ください)

優良発表賞の評価ポイントは

- プレゼンテーション
- 説得力
- 質疑への応対
- 独創性
- 論理性
- データの価値

などです。

問い合わせ先

学会全般に関するお問い合わせ
低温工学・超電導学会事務局
☎ 03-3818-4539、e-mail: csj@csj.or.jp

研究発表会 運営委員会

研究発表会実行委員会

委員長
石山 敦士 早稲田大学

プログラム編成委員会(企画委員会)

委員長
井上 昌隆 / 学会運営担当 / 福岡工業大学

副委員長
横山 和哉 / プログラム編成担当 / 足利大学

委員

伴野 信哉 / 併設展示担当 / 物質・材料研究機構
岩井 貞義 京都フュージョニアリング
岡村 崇弘 高エネルギー加速器研究機構
川越 明史 鹿児島大学
下山 淳一 青山学院大学
高田 卓 核融合科学研究所
田中 秀樹 日立製作所
宮城 大輔 千葉大学
村上 隆之 量子科学技術研究開発機構
山梨 裕希 横浜国立大学

オブザーバー
古瀬 充徳 産業技術総合研究所



ステージ3: 主催者にコンタクトする

有望な方を探したら、次は主催者にコンタクトですね！



連絡先は研究室のHPなどに載っていることが多いです。最初はメールでコンタクトするのが良いと思います！



解説

STEP 1

主催者の連絡先を取得する

(大学名) + (教授名) + 連絡先 で検索



教授の所属する研究室HPを閲覧



STEP 2

主催者にコンタクトを取る

☑ 主催者にコンタクトをとる時のポイント

<主催者の関心を引く内容を入れる>

- ・ 主催者が興味を持てるようなコンテンツを含めてコンタクトをとる。具体的には、市の助成金情報や行政の予算事業の案内など、教授を実務的に支援できる内容が良い

<コンタクトのタイミング>

- ・ 教授も特に学会シーズン（3、9月）や新学期の始まり（4、10月）は忙しい。特段の理由がない場合その時期は避けるべきである
- ・ 年末年始や、新任の方が着任されるタイミングはアポ取りしやすい

<コンタクトの初動を早くする>

- ・ 完璧なやりかたというのはなく、実際にコンタクト取ってみないと何も進まない。とにかくまず連絡をとってみることを意識する

- 主催者に関心事を含んだメールの例 -

△△大学〇〇教授

このたび××市として「コンベンション誘致補助制度」を新設いたしました。つきましては、ご説明のお時間をいただくことは可能でしょうか

観光庁より▽▽事業の公募が始まり、会議誘致した際に補助金が出されるようです。もしご興味がありましたらご説明に伺いますがいかがでしょうか



💡 プロセス3のポイント

- ✓ 大学や研究室のHPから教授の連絡先を取得できることが多い
- ✓ 電話や飛び込み営業ではなく、メールでアポイントを依頼する
- ✓ 助成金情報など、主催者が関心を引くようなコンテンツでアポを依頼する



ステージ4：主催者と会う

主催者を訪問・面談する際のコツはありますか？



主催者ごとの困りごと・ニーズに合わせた面談をすることが大切です。そのための事前準備をしっかりと行いましょう！



解説



事前準備しておくべき情報



Check 1：MICE施設・宿泊施設の情報

- ✓ 会議施設：会場面積やキャパシティ、機器設備、金額など
- ✓ 宿泊施設：部屋数、部屋タイプ、宴会場の有無など



Check 2：補助金情報

- ✓ 県や市が設けている補助金の金額、補助条件など
→近年、学会開催にも黒字化の圧力が強まっている傾向にあり、教授陣としては補助金の有無は大きな関心事となっている



Check 3：アクセス

- ✓ 主要な駅・空港からのアクセス方法
→コロナ渦で減便していたものが近年また増便している場合もあり、最新情報をチェックしておく
- ✓ オプションとして提供できる交通手段（リムジンバスのチャーターなど）



Check 4：国際会議支援メニュー

- ✓ CB・自治体として主催者に対して提供できる支援（補助金申請支援、施設予約の代理、エクスカージョンの提案・手配、当日の運営サポート等）



Check 5: 自都市での開催の魅力

- ✓ ナイトタイムエコノミー
- ✓ ユニークベニュー
- ✓ テクニカルビジット
- ✓ エクスカーション

→「こんな場所で開催できるんだ」というユニークベニューやエクスカーションがあると記憶に残りやすい

地元大学の教授であっても、CBや自治体がどんな支援をしてくれるのか、どんな補助制度があるのか知らない人は意外と多いのが現状です

最新情報を取りまとめ、教授の困りごとに応えられるようにしておくことが大切です



主催者と面談するときTips



<まずは知ってもらう・覚えてもらう>

- 主催者とは数年にわたる長期的な関係を作っていくこととなるため、初回はなによりも「覚えてもらう」ことが重要
- 国内会議・国際会議問わず、会議誘致に対してよろずに相談してもらえる立場を目指す



<お土産を持っていく>

- 教授によく理解してもらうため、施設資料やパンフレットなどを持っていく良い
- 会議誘致した際のイメージを持ってもらうためにも、ノベルティを持っていくことも効果的



プロセス4のポイント

- ✓ 教授のニーズに対応するため、自都市情報の事前準備をしっかり行う
- ✓ 初回の面談では、自都市やCB・自治体のことを知ってもらう、会議誘致の良き相談相手として認知してもらうことを目指す



番外編：もしも当てが外れたら？

教授を訪問しましたが、会議を主催する予定はないと言われてしまいました



もし当てが外れてしまっても、他の教授の紹介依頼をしたり、こちらにできることをアピールして次につなげましょう！



解説



Action 1：他主催者の紹介依頼

訪問した方に会議誘致の予定がなくとも、周辺に会議誘致を考えている教授がいる可能性はある。そのような方がいないか確認しましょう

周りに国際会議に関心のありそうな先生をご存じないでしょうか



〇〇科のXX先生が、今度学会の実行委員会をやると言っていたので、話を聞いてみると良いかもしれませんよ！



Action 2：教授の困りごとのヒアリング

会議誘致に直接関わることでなくても教授の困りごとで貢献できることがあれば積極的に支援しましょう。会議誘致に留まらず、フランクに相談してもらえるような友好関係を築くことが大切です。

実は大人数が入る食事場所がなかなかなく、会議後に夜ご飯に連れて行く場所に困ってるんですね...



周辺の飲食店のキャパを記載したリストを持っているので、そちらご共有しますね！



教授に対して個別に連絡を取っていく以外に、市や大学と連携して複数の教授陣に一気にアプローチする方法もある。具体的には、大学の事務局経由で自都市のコンベンションに関する情報を教授の方に共有してもらうことや、教授会で時間をもらって自都市での開催メリットについて説明するなどである。教授に個別にコンタクトするより難易度は上がるが、既に大学の事務局や有力な教授とコネクションがある場合はチャレンジしてみると良いかもしれない

姫路観光コンベンションビューローでは、観光庁事業の一環で地元の兵庫県立大学と連携し

- ①コンベンションセミナー
- ②学会でのランチンセミナー
- ③好古園のレストランでユニークベニユーの体験

を実施した。特に①では開催後アンケートから、国際会議をやる予定の方を数名見つけることや、潜在的な会議ニーズについてのコメントを獲得するなど、一定の効果を発揮していた。

第2節

誘致に向けた主催者との関係構築

面談しましたが、直近の会議誘致は難しそうです...



会議誘致は頻繁にあるものではありませんから、主催者と長期的な友好関係を築くことが重要です！



解説



主催者と友好的な関係を築くためのアクション



Action 1 : 定期的な情報提供

- ✓ **節目での挨拶**: 年末年始や新しい事業が始まったタイミングで挨拶のメール・電話をする
- ✓ **情報のアップデート**: 補助金制度や新しいエクスカージョンなど、教授にとって新鮮な情報があった場合にメールやパンフレットでお知らせする



Action 2 : アワード・表彰制度を追加

- ✓ **アワード**: 地域への貢献度が高かった会議や、今後のモデルとなるユニークな会議を開催した主催者を表彰する取り組みを行う
→ 大学・研究機関から会議誘致に対するインセンティブが出ないなかで、地元で開催することの動機付けを作る



Action 3: 国内会議誘致のサポート

国内会議誘致のサポート実績が、主催者からの信頼獲得にはとても重要になるため、開催地選定の段階から手厚くサポートすることが大切になる

開催地選定段階

- ✓ 特に補助金やエクスカーションに関する最新情報
→例えば「羽田間の発着便が1つ増えた」というような情報でも喜ばれるケースもある。主催者に向けて情報を定期的にアップデートして伝えることが重要

開催準備段階

- ✓ 補助金等の書類申請
- ✓ 施設予約調整
- ✓ 席配置・レイアウト検討

開催段階

- ✓ 受付サポート
- ✓ ノベルティの作成配布

☒ 主催者を支援する上でのTips

- 主催者の支援をするなかで、自治体やCBも困りごとやわからないことに直面することがある。そのようなときは他都市の同業者からのアドバイス・支援を受けることが非常に有用である
- 他都市の自治体・CBとのつながりをつくる上では、JCCB/JNTOが主催する国際MICEエキスポ（IME/アイミー）などで積極的に情報交換すると良い
- また国や自治体の支援制度については、自治体やCBに加えてJNTOへ問い合わせることも有効な手段の一つである

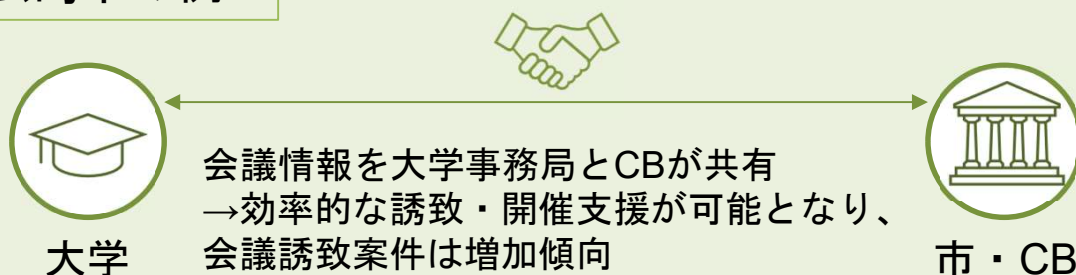
形骸化した連携協定の弊害

近年、地域・大学間連携の重要性が認識されつつあるなかで、市や県などの自治体と大学当局が連携協定を結ぶ事例が増加しつつある。一方で、連携協定を結んだはいいものの、ほとんどのケースでは具体的な取り組みが何も出来ていないというのが実態である

残念ながら連携協定といっても、多くの場合大学・自治体の両者に対して拘束力をもつものではなく、いわば連携を推進させるための「口約束」であることが多い。具体的なアクションを生もうとするならば連携協定を「手段」として有効活用し、データベース連携やセミナーなど実施に向けて主体的に働きかけを行う必要がある

成功事例として、広島市では広島大学・広島市・広島CBが連携協定を締結するなかで、大学教員の会議情報の連携を行っている

広島市の例



大学との連携を推進させる「手段」であったはず協定が「目的」になり、形骸化した連携協定が増えていくことは大学・自治体にとっての好ましい状況ではない。今後連携協定を結ぶことを考えている大学・自治体には「協定を結んだうえで具体的に何をするのか」をしっかりと考えるということをお願いしたい

第3節

県外の有望な主催者の探し方

中長期的に会議誘致数を増やしていくうえでは、県内に留まらず、旧帝大をはじめとした県外の主催者とのつながりを作っていくことも大切です！



解説

☑ 県外の有望な主催者の探し方・アプローチの仕方

Case 1: 県内教授人脈からの繋がり

- ✓ **紹介依頼:** 県内の教授は、出身大学や学会の繋がりなどで県外教授とのコネクションを持っている。特に国際会議ニーズが大きいと想定される旧帝大などの先生とのコネクションを予め調べて置き、積極的に紹介を依頼してみるとよい

共同研究をしている方で東大の先生がいるな！紹介してもらえるか聞いてみよう



東大の〇〇先生、ご紹介お願いできませんか？

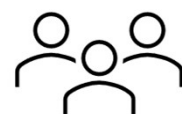
いいですよ！先日ここに来たとき、とても好印象だったですよ！



- ✓ **口コミ:** 県内の教授から信頼関係を獲得すると、こちらが意図した形以外で県外の教授まで口コミ・評判が広がっていくことも多い



うちの地元は自治体・CBのサポートも手厚いし、色々揃ってますよ！



県外教授

教授の共同研究者を調べる上では、研究系ウェブサイトの活用が有用です！KAKENやresearchmapといったウェブサイトから科研費や共同研究者について調べましょう



ウェブサイト例：KAKEN

KAKEN

研究課題をさがす

研究者をさがす

KAKENの使い方

日本語

大谷 幸利 OTANI Yukitoshi

ORCID連携する *注記

研究者番号

10233165

その他のID

J-GLOBAL

researchmap

外部サイト

CiNii

所属 (現在)

2024年度: 宇都宮大学, 工学部, 教授

所属 (過去の研究課題情報に基づく) *注記

2020年度 - 2024年度: 宇都宮大学, 工学部, 教授
 2015年度 - 2017年度: 宇都宮大学, 工学(系)研究科(研究院), 教授
 2010年度 - 2012年度: 宇都宮大学, オプティクス教育研究センター, 教授
 2007年度 - 2009年度: 東京農工大学, 大学院・共生科学技術研究院, 准教授
 2006年度: 東京農工大学, 大学院共生科学技術研究院, 助教授 ... もっと見る

審査区分/研究分野

研究代表者

機械工作・生産工学 / 生産工学・加工学 / 知能機械学・機械システム / 理工系 / 医用生体工学・生体材料学

研究代表者以外

大区分 / 機械工作・生産工学 / 理工系

キーワード

研究代表者

3次元形状計測 / ナノ形状 / 超精密計測 / ナノ形状計測 / ストークス・パラメータ / ミュラー行列 / 偏光計 / ミュラー行列 / オプトメカトロニクス / 光駆動 ... もっと見る

研究課題 (13件)

研究成果 (162件)

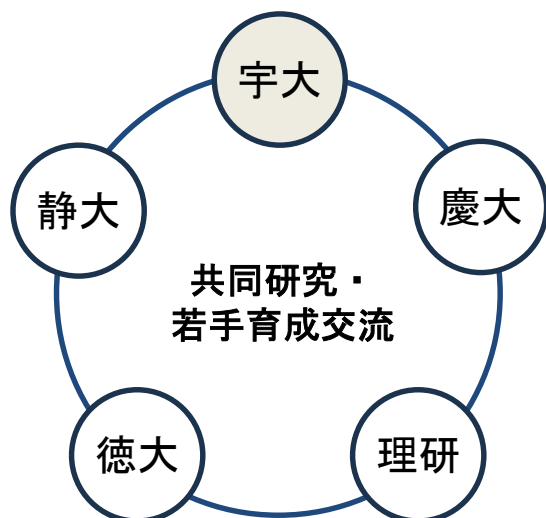
共同研究者 (15人)

共同研究者

研究課題数: 降順

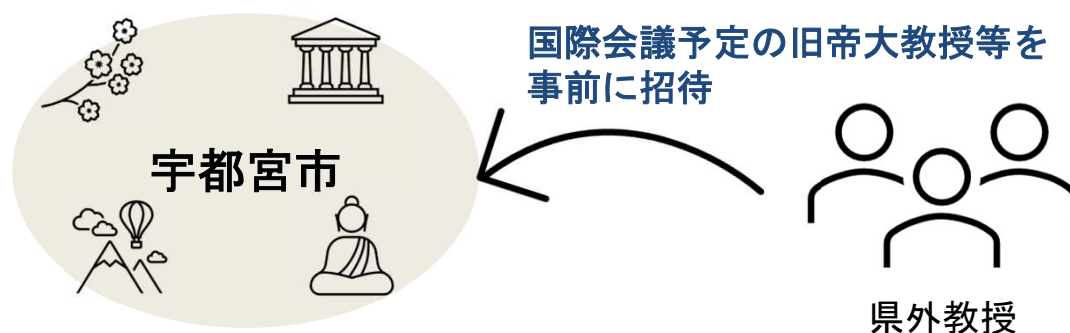
1. 梅田 倫弘 (60111803)	共同の研究課題数: 3件	共同の研究成果数: 2件
2. 水谷 康弘 (40374152)	共同の研究課題数: 3件	共同の研究成果数: 6件
3. 吉澤 徹 (80020387)	共同の研究課題数: 1件	共同の研究成果数: 0件
4. セラノオG ダビッドI (80747270)	共同の研究課題数: 1件	共同の研究成果数: 0件

【大学間ネットワークの例】（宇都宮大学）



- 光工学分野で、宇都宮大、徳島大、静岡大、慶大、理化学研究所等で共同研究や若手育成交流を実施
- 若手を集めたセミナーを宇都宮、徳島、浜松などで輪番制で実施

【他大学へのアプローチ例】（宇都宮のファムトリップ）



県外教授との関係構築

新たな主催者の紹介

特に旧帝大・早慶出身の先生は、出身大学のつながりを引き続き有しているケースが多く、国際会議積極派の先生同士で会議を企画したり、海外会議に参加したりしているケースも多く見受けられます。このような人脈を自治体・CB側でリストとして蓄積し、タイミングをみてアプローチしていくと良いです

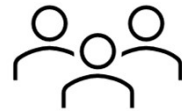


Case 2: 国内会議の参加者

- ✓ **国内会議参加者へのアプローチ:**
国内会議で自都市を訪れた県外教授も重要なターゲットになり得る。
会議施設を利用しているということは、既に施設に対するイメージや理解があるということであり、以後定期的に県外教授に補助金や実績説明をすることで、自都市で会議誘致してもらうことも期待できる



先日の〇〇会議でお越しいただいた▲▲市ですが、よろしければ補助金や実績説明のお時間いただけないでしょうか？



県外教授

Case 3: 県外でのイベント開催・参加

- ✓ **自都市の紹介セミナー:**都市圏など、有望な主催者が多いと思われるエリアで自都市の紹介セミナーを開催し、普段接点のない主催者に対して自都市の施設・設備やアピールポイントを紹介する
→自都市だけでの開催が難しい場合は複数都市合同でやることも一案
- ✓ **県外の学会へのブース出展:**学会へ自治体やCBとしてブース出展し、学会に参加している幅広い教授陣へアクセス。そのなかで自都市での開催に興味をもってくれそうな方にアプローチする

セミナー開催においては、既に関係のある地元大学のキーパーソンに登壇してもらうことで、他大学教授との関係構築・強化をより期待できる

実際に私が地元で国際会議したとき、CBや自治体の方々にしていただいたサポートとしては、、、



説明への信頼度



開催イメージ



県内教授のネットワーク活用事例

おokayama観光コンベンション協会では、県内主催者に加えて県外教授とのネットワーク拡大も積極的に行っており、その1つとして県外学会へのブース出展を行っている

例えば、「応用物理学会」という日本最大規模の学会にCBとしてブースを出展。珍しいアカデミアや企業以外の出展として立ち寄ってくれる教授が現れるため、そこで自都市のアピールや名刺交換を行い教授陣とのネットワークを構築している

また、過去に岡山で会議を主催したことがある教授の方に、学会に参加している知人教授を紹介してもらうことで、県内教授の周辺主催者とのネットワークの構築を実現している

出展時の様子



